

久留米シティプラザ
第八回 喜多流「久留米座」能

能 弱法師

狩野 了一

舞囃子
融

狩野 祐一

◆ 令和6年1月21日(日)

午後3時開演 (午後2時30分開場)

◆ 久留米シティプラザ「久留米座」

福岡県久留米市六ツ門町8-1

◆ 入場料 / 指定席 ¥5,000 (当日¥6,000) 自由席 ¥4,000

◆ チケット販売・問い合わせ / 三瀧文化協会(喜田) TEL:090-8298-9987
喜秀会事務局(狩野) FAX:096-325-6690
久留米シティプラザ2F サテライト TEL:0942-36-3080

主催 久留米座演能実行委員会

共催 久留米連合文化会・久留米喜秀会

後援 久留米市・久留米市教育委員会・(公財)福岡県教育文化奨学財団・三瀧文化協会・福岡県喜多流教授教士会・久留米喜多会
協力 桐光会・喜秀会

番組

〔解説〕 大島 衣恵

舞囃子

融

狩野 祐一

大鼓 白坂 信行
小鼓 古田寛二郎
太鼓 田中 達
笛 浦 政徳

能

シテ(俊徳丸)

狩野 了一

ワキ(高安通俊) 岡 充
アイ(供人) 吉良 博靖

大鼓 白坂 信行
小鼓 古田寛二郎
笛 浦 政徳

後見

狩野 祐一
大島 衣恵

地謡

井上 勝晴
北原 浩吉
石橋 荒鷺
向井 昇
山本 芳幸
大島 輝久
内田 成信
中村 邦生
粟谷 充雄

附祝言

終了予定 午後四時半頃

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用はお控え下さいませ。

弱法師 あらすじ

河内国高安に住む高安通俊は、かつて他人の讒言を信じ実子の俊徳丸を追放してしまふ。その後悔から春の天王寺で七日間の修行を行い、今日がその最終日であった。そこへ弱法師と呼ばれる盲目の若い乞食が現れる。弱法師が修行を受けようと列に並ぶと、梅の花びらが袖に散りかかる。その花の香りから春を感じ、また天王寺の建立を語る。通俊は弱法師こそが我が子俊徳丸であると気づく。日没の頃に弱法師は沈む夕日を観ながら極楽浄土を想う日想観を行っていた。かつての難波の浦の絶景を思い出し、舞って謡い狂い歩き回る。しかし人に当たり転倒してしまい、盲目の悲しさに打ちのめされる。やがて夜となり、通俊は弱法師に自分が父であると明かす。恥ずかしさから逃げる弱法師であったが、通俊は追いつき手を取り高安の里に連れ帰るのであった。

融 あらすじ

中秋の名月の頃、東国の僧が都へ上り六条河原院で休んでいると、田子を背負った汐汲みの老人が現れる。海辺でないところで汐汲みとは、と疑う僧に対して、老人はかつて左大臣・源融が陸奥千賀の塩竈の景色を移して住んだところだと語る。融は毎日難波から潮を汲ませ、塩を焼かせることを楽しんだが、融亡き後に荒廃してしまつた。その事を嘆き悲しむ老人に僧は寄り添いつつ、所の山々の名所を教えてもらう。一緒に月を楽しむうちに老人は汐を汲む様子を見せた後、姿を消してしまふ。僧は六条の者から河原院と融の物語を聞き、先ほどの老人が融の霊だつたと気づき旅寝につく。その夜、僧の夢枕に融が現れ、昔を偲び月のもと遊樂に乗って舞う。夜明けとともに、名残惜しい面影を残して、再び月の都へと消えていくのだった。

舞囃子では融の霊が月下にて生前の豪華な遊びの様子を語り、舞う場面を紋服姿にて演じる。

【会場案内図】



〒830-0031

福岡県久留米市六ツ門町8-1

TEL 0942-36-3000